

シンポジウム 「大震災から2年9ヶ月—環境工学はどう変わったか」

主催：日本建築学会 巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会

日程：2013年12月3日（火）13：30～17：00

会場：建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）

東日本大震災から2年9ヶ月が過ぎようとしている。大震災では、今後環境工学が取り組むべき多くの課題が再認識された。直接的な被害では、避難所や仮設住宅などの室内環境の健康性や快適性の課題、放射性物質などの空気汚染への対応策などが再認識された。しかし、環境工学分野に大きな影響を与えたのは、環境設備等の設計の前提となるエネルギーや水などのライフライン機能の遮断や低下である。これらから、今後の住宅・建築及び都市の環境や設備の計画・設計のあり方に対して大きな課題を得た。

そしてこれらの課題を受けて、環境工学のあり方や役割も大きく変わりつつある。そこで、大震災から2年9ヶ月、環境工学分野に係わる計画・設計はどう変わったのか。これをメインテーマとし、今後の建築・地域・都市において環境工学が成すべきことを明らかにする。

プログラム（発表タイトルには仮題を含む）

- 司会 羽山広文（北海道大学）
- 副司会 望月悦子（千葉工業大学）
- 記録 中島裕輔（工学院大学）、増田幸宏（豊橋技術科学大学）

1. 開会挨拶・主旨説明 田辺新一（早稲田大学）
2. 総論
 - ①住宅・建築の環境・設備の再考：田辺新一（前掲）
 - ②都市の環境エネルギー計画の再考：村上公哉（芝浦工業大学）
3. 主題解説
 - ①室内環境（光環境）：望月悦子（千葉工業大学）
 - ②室内環境（温熱環境）：中野淳太（東海大学）
 - ③室内環境（空気環境）：柳 宇（工学院大学）
 - ④環境設備設計：奥宮正哉（名古屋大学）
 - ⑤都市環境計画：成田健一（日本工業大学）
 - ⑥地域エネルギー&マネジメントシステム計画：吉田聡（横浜国立大学）
4. パネルディスカッション
コーディネーター：岩田利枝（東海大学）
コメンテーター：吉野 博（東北大学／本会会長）
5. まとめ 佐土原聡（横浜国立大学）

※都合により講演者が変更となる場合があります。

参加費：会員1,500円、会員外2,500円、学生1,000円

（資料代含む、当日会場でお支払いください）

定員：60名（申し込み先着順）

申込方法：Web 申し込み <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=626> よりお申し込み

ください。

申込問合せ：日本建築学会事務局 教育・普及事業グループ 酒井

TEL03-3456-2051 E-mail：sakai@aij.or.jp